



## NPO 法人日本防火技術者協会 平成20年度通常総会予告

日時 平成20年2月1日(金)  
13時~14時  
場所 東京理科大学森戸記念館



SFPE・Jニュース  
(SFPE 日本支部  
の活動 第17号)

## SFPE 支部のアジアオセアニア地 域交流会と香港現地建物視察

9月23日、SFPE支部のアジア・オセアニア地域交流会と香港現地建物視察が香港にて開催された。この企画は、SFPE 日本支部が呼びかけてSFPE 香港支部長の香港理工大学教授のチョー・ワンキ (Prof. Chow) 先生のご協力を得て、第7回火災科学技術に関するアジア・オセアニアシンポジウムの期間にあわせて開催したものである。そのおかげで、午前の交流会議には予想をはるかに上回る43名(日本18名、香港11名、中国本土7名、台湾4名、韓国3名など5地域から)が参加して、大変盛況であった。

午前の会議では、最初に3月に成立したSFPE台湾支部の承認式が行われ、SFPE本部を代表して本部理事会メンバーである関澤氏から台湾支部に承認盾が授与された。その後、台湾支部、日本支部、韓国支部、香港支部から活動の現状報告と意見交換があり、最後に中国科学技術大学の先生からSFPE支部を作りたいとの決意表明があった。

午後からは、香港における性能設計事例や興味深い開発プロジェクトの視察を行った。まず、九龍半島北西部の新興ニュータウンを訪れ、次に青馬大橋(橋のスパン1,377mで吊り橋として世界で6番目、道路鉄道併用橋としては世界一の長さを誇る)を視察した。最後に、ランガムプレイスという評判の性能設計建築事例を見学したが、日本では考えられないような巨大な複雑なアトリウム空間で度肝を抜かれる思いであった。懇親会では、

辛い四川料理の夕食で歓談し、懇親を深めることができた。

最後に、次回の交流会の予定については、台湾支部から来年5月以降に今回のような企画を開催したいとの提案があった。今後は、今回参加していないアジア・オセアニア地域の他の支部にも、声をかけて、この地域の更なる交流の発展に取り組んでいく予定である。



午前の交流会議風景



青馬大橋にて参加者の集合写真

## 第7回性能基準と火災安全設計法 に関する国際会議 ケーススタディ作業は順調に 進行中

第7回性能基準と火災安全設計法に関する国際会議は、2008年4月16~18日にニュージーランドのオークランドで開催されます。会議の概要は、[www.sfpe.org/upload/sfpe\\_08conf\\_cfp.pdf](http://www.sfpe.org/upload/sfpe_08conf_cfp.pdf)をご覧ください。

ケーススタディの今年の課題は、階段が一つしかない高層集合住宅です。バルコニーや、周回廊下の設置で手堅くまとめる方向もありましたが、それではアピール度が低いとの意見もあり、三層ごとに区画された吹抜をコミュニティの核としてそれが非常時には避難拠点にもなると言う高いハードルを掲げて挑戦しています。1月

末の原稿締め切りに向けてこれからが正念場となりますのでよろしくご支援をお願いします。

## 六本木トライアングル 見学会の報告

見学場所： 新国立美術館  
東京ミッドタウン

6月22日、当会で六本木の名所を尋ねました。国立新美術館と東京ミッドタウン、それに六本木ヒルズです。この3箇所は現代を象徴するところとして新しい東京の名所となっており、おのぼりさんにとっても重要なところのようです。山手線のちょうど真ん中でまさに「ミッドタウン」にふさわしいところで、かつては外国人たちでにぎわっていたところが今や女性陣に席卷されつつある姿は確かどこかで見たと同じ姿だったと想起しました。

JAFPEの防災関係者として富松が国立新美術館を、日建設計の福井さんが東京ミッドタウンを案内しましたが20人以上の参加者で盛況でした。また有志で六本木ヒルズにも足を伸ばしました。



うねるガラスの外観

新美術館は折りしも開館記念の「モネ展」で平日の昼間から長蛇の列、日傘の女ならぬ雨傘でやってきた女性たちで満杯。いかに日本人が芸術に飢えていたかが分かります。建築は故黒川紀章氏デザインのうねるガラスの外壁が圧倒的。ロビーも見事な空間、多くの人を飲み込んで余りある。コ



ーンの上のレストランや喫茶店もお  
おらかでよい。開放感一杯である。こ  
れは性能設計による超法規的空間で、  
面積区画や上階延焼検討に関して安  
宅防災と共に工夫を重ねて実現した  
ものである。おそらく多層空間として  
は2000年の法改正後最大のもので  
あろう。



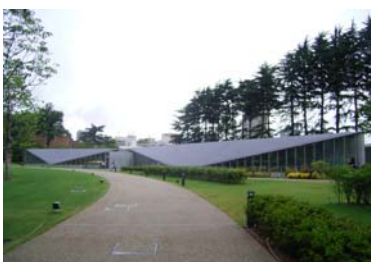
内部空間とコーン

次に東京ミッドタウン(TMT)を  
訪ねる。これも複合的なものとしては  
最大級の性能設計のものである。日建  
設計諸氏のおかげで高層部の事務所  
まで見学させていただいた。低層部  
には各所にアトリウムがあり、賑わい  
を見せている。この複雑さを解くには相  
当長い時間と計画の説得・誘導があっ  
たと思われる。

見学の終わりに庭に出てみた。緑の  
庭の空間と瀟洒でシンプルな安藤忠  
雄氏のギャラリー。隈研吾氏の美術館  
やカフェテラスが憩いの空間を提供  
している。



大屋根の玄関



庭のギャラリー

最後に有志で六本木ヒルズに森美  
術館の「コルビジェ展」を見に行く。  
コルの絵が多く見られてその造形の  
原点を見る。2度の世界大戦の間は絵  
を描いて過ごしたことが分かる。また  
マルセイユのユニテの1住戸と海辺  
の小屋の実物大模型がある。アトリエ  
も再現されているのは感心した。力の  
こもった展覧会であった。

夜になり今日見学して来たビルが  
見える。TMTから新美術館も眺めら  
れたが、ここからも見える。またTMT  
の夜景も美しかった。ぜひ皆さんも....



TMTから見た新美術館



ヒルズからのTMT夜景  
(富松太基)

## シンポジウム 開催案内 火災リスクを考慮した 火災安全設計法の開発に向けて

主催 独立行政法人建築研究所

後援 東京理科大学 21世紀COE

シンポジウムの概要

独立行政法人建築研究所では、平成  
18年度より重点的研究開発課題とし  
て「火災リスク評価に基づく性能的火  
災安全設計法の開発」に取り組んでお  
ります。今回、この研究プロジェクト  
の中間報告のシンポジウムを開催し  
ます。

日本では、2000年の建築基準法改正  
において、防火に関する性能基準が導  
入され、性能に基づく火災安全設計が

広まりました。しかし、仕様規定のま  
まである基準もあり、防火区画の面積  
制限の緩和や、スプリンクラー設備の  
適切な評価を求める声も少なくあり  
ません。これらの課題を解決するため  
には、火災リスクを適切に評価するこ  
とが重要だと考えられています。

本シンポジウムでは、火災リスクを考  
慮した火災安全設計の考え方や、防火  
区画の計画に関するケーススタディ  
について、これまでの研究成果を発表し、  
幅広い議論を行なうことを目的とし  
ています。

日時 11月28日 13時～17時

場所 東京理科大学 森戸記念館

(JR飯田橋)

参加者 当該分野に関心のある方、議  
論に積極的に参加して頂ける方  
会場の定員(100名)がありますので、  
11月21日までに登録フォームによ  
り参加登録をお願いします。

参加費 無料

プログラム案

1. 趣旨説明
2. 火災リスクに基づく火災安全設  
計の考え方  
<質疑・討論>
3. 避難・消防活動・構造耐火の観  
点からみた防火区画のあり方
4. 防火区画のあり方ケーススタ  
ディ

- ・避難安全性能について
- ・消防活動支援性能について
- ・構造耐火性能について
- 5. 防火設備に求められる性能  
<質疑・討論>
- 6. まとめ

問合せ先・申込先:

独立行政法人建築研究所  
防火研究グループ 仁井大策  
メール [nii@kenken.go.jp](mailto:nii@kenken.go.jp)  
Fax 029-864-6775

## 講演会のご案内

東京理科大学・21世紀COEプロ  
グラムのシンポジウムが下記の日程  
で開催予定です。詳細は、別途お知ら  
せいたします。

主催 東京理科大学

21世紀COEプログラム

協賛 日本防火技術者協会他



# 日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

日時：平成20年3月10・11日  
両日とも9:00～17:00  
主 題：(第一日目)招待講演  
火災安全科学における卓越  
した研究拠点とそのグロー  
バルネットワークの構築  
(第二日目)一般学術講演  
場 所：グランドプリンスホテル赤坂  
Web：  
<http://www.rs.noda.tus.ac.jp/coe-fire>

## Journal of Fire Protection Engineering Vol.17 No.2 MAY 2007

The Effect of Fuel Quantity and  
Location on Small Enclosure Fires,  
(小規模区画火災における可燃物量と配  
置の影響)  
L. R. Thomas, K. A. M. Moinuddin  
and I. D. Benetts.

Fire Load Survey of Historic  
Buildings: A Case Study.(歴史的建造物  
の火災荷重調査：ケーススタディ)  
A. M. Claret and A. T. Andrade

A New T-equivalent Method for Fire  
Rated Wall Constructions using  
Cumulative Radiation Energy, (累積放  
射エネルギーによる耐火構造壁の新たな  
等価火災時間計算法)  
C. R. Baenett.

Thermal Response to Fire of  
Insulated Cylindrical Steel Elements,  
(耐火被覆された円柱鋼材の火災に対す  
る熱応答)  
F. W. Mowrer.

ESFR Sprinkler Protection of Class II  
Commodity in Cold Storage  
Warehouses using Propylene Glycol  
Antifreeze Agent. (ポリエチレングリコ  
ール凍結防止剤を用いた冷凍倉庫におけ  
るクラスIIのESFRスプリンクラー防火設  
備)  
H.-C. Kung, M. L. Pabich, K. M. Bell, E.  
Jackson and S. T. Franson.

## Journal of Fire Protection Engineering Vol.17 No.3 AUGUST 2007

Ignition: A Century of Research and  
an Assessment of Our Current  
Status, (着火：一世紀の研究と現状分析)  
V. Babrauskas.

Prediction of Fire Growth for  
Compartments of Office Buildings as  
Part of a Fire Risk/Cost Assessment  
Model.(火災リスク/コストアセスメント  
モデルのパーツとしてのオフィスビル居  
室の火災拡大予測)  
G. Hadjisophocleous, Z. Fu and C.  
Dutcher

Vent Flows in Fire Compartments  
with Large Openings, (大きな開口を有  
する区画火災における開口流)  
E. H. Yü, C. M. Fleischmann and A. H.  
Buchaman

## FIRE PROTECTION Engineering No.34 SPRING 2007

Fire Protection Engineers in the  
Regulatory Process – A Roundtable  
Discussion. (規制プロセスにおける防火  
技術者の役割 - 円卓会議)

The roles and responsibilities of  
FPE's employed by regulatory  
agencies. (規制機関に雇用された防火技  
術者の役割と責任)  
William E. Koffel. P. E., FSFPE

Evaluation of CFD Methods for  
Predicting Smoke Movement in  
Enclosed Spaces, (閉鎖空間における煙  
流動予測 CFD 手法の評価)

Identifying the appropriate CFD  
model for a given situation. (与条件に  
おける適切な CFD モデルの弁別)  
Nathalie Gobeau.

Verification and Validation – How to  
Determine the Accuracy of Fire  
Models. (検証と適合性確認 いかにか火災  
モデルの精度を測れば良いか?)

Assessing the relative accuracy of  
fire models for nuclear power plant  
applications.(原子力発電所への適用のた  
めの火災モデルの相対的な精度の評価)  
Mark Henry Salley, P. E.; Jason  
Dreisback; Kendra Hill; Robert  
Kassawara, Ph. D., Bijian Najafi;  
Francisco Joglar, Ph. D., P.E.;  
Anthony Hamins, Ph. D.; Kevin  
McGrattan, Ph. D.; Richard Peacock;  
and Bernard Gauffier.

The Fire Engineering Brief: An  
Essential Tool for Regulatory  
Approval of Performance-Based  
Design, (火災安全工学概要書：性能設計  
案承認のための重要なツール)

How a FEB was successfully used to  
obtain approval for an atrium office  
building in New Zealand. (ニュージー  
ランドにおけるアトリウム付きオフィス  
ビルの認可取得に火災安全工学概要書が  
どのように用いられたか)  
Martin Feeney and Judith K. Schulz.

Codes and Standards and AHU's –  
Oh, My!. (基準と規準と建築主事の悲鳴)

Multiple paths or options in codes  
and standards often lead to desired  
goals. (基準と規準に書かれている2以上  
の避難経路の条文は、望ましい設計案にな  
ることが多い)  
NEMA.

## FIRE PROTECTION Engineering No.35 SUMMER 2007

Fire Safety Challengers Facing  
College Campuses – A Facilities-  
Management Point of View. (大学キャン  
パスに向き合う防火挑戦者 施設管理  
の視点)

How to protect people and property,  
prevent fires and manage fire impact  
on college campuses. (大学キャンパス  
において人命と財産を護り、火災を防止し、  
火災被害を軽減する方法)  
Mansour Alipour-ford. P. E.



# 日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

Campus Fire Safety – A U.S. Overview. (キャンパスの火災安全 - 全米の概要)

Where and why do the majority of fires occur? (良くある火災の発生場所と原因)

Ed Comeau.

Community Collaboration : A College Administrator's View of Campus Fire Safety. (コミュニティの協力: キャンパスの火災安全に対する大学管理者の視点)

An exploration of the many issues involved with keeping students safe. (学生の安全確保に関する多くの課題の調査)

Ward W. Caldwell.

The Emergence of CAF Fixed-Pipe Fire Suppression Systems. (蓄圧式固定式泡消火システムの出現)

An overview of compressed-air foam (CAF) fire suppression, its impact and applications. (蓄圧式泡消火の概要、そのインパクトと応用例)

J. P. Asselin, G. P. Crampton, A. K. Kim, and J. K. Richardson

Campus Fire-Alarm Challenges. (キャンパス火災警報の挑戦)

Strategies for improving detection, alarm and signaling systems to trigger appropriate emergency behaviors. (非常時行動を起こさせるための火災感知、警報、通報システムの改善への戦略)  
NEMA.

## 新入会員

新たに入会された個人会員3名の方々を記載しました。(敬称略)

[会員]

西村光太〔鹿島建設(株)〕

淡野綾子〔Arup Japan〕

吉岡英樹〔(独)建築研究所〕

[合計104名]

[学生会員]

[1名]

[賛助会員][合計5団体](計7口)

## 理事会等の開催結果

理事会を以下の日に実施しました。

4月26日(月)

6月26日(月)

9月13日(木)

10月19日(金)